

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第32回部会）議事概要

日 時：令和3年7月8日（木）午後7時～午後8時10分 場 所：東淀川区役所出張所3階多目的室
【議事】 1 開会 2 部会長あいさつ 3 議題 (1) 今年度の進め方について (2) 活動報告及び意見交換 (3) リモート会議に向けたオンライン環境調査結果 (4) その他 4 その他 5 閉会 <<配付資料>> ・ 議事次第 ・ 資料-1 令和3年度の進め方 ・ 資料-2 活動報告 ・ 資料-3 まちづくり構想部会（リモート会議）に向けたオンライン環境調査

1. 開会

2. 部会長あいさつ

3. 議題

(1) 今年度の進め方について

(事務局)

- ・ 議題の1つとして、今回は自由席で進行させて頂く。後ほど、座席について意見を頂きたい。
- ・ 令和3年度の構想部会については6回の開催を予定していたが、緊急事態宣言下であったため5月の構想部会の開催を見送った。
- ・ このまま、例年通り2ヶ月に1回の開催で進めた場合、全5回の開催の予定となる。ただし、5月の部会は見送りという形にしたため、必要であれば6月、8月といった開催予定で無い月に開催し全6回とすることも考えられる。これについても意見を頂きたい。

(部会長)

- ・ 座席については議題終了後に意見を貰うようにする。
- ・ 開催回数については、今後の状況次第で決めるべきではないか。

(事務局)

- ・ 承知した。開催回数については、今後の状況から必要なタイミングで議題とする。
- ・ 部会の進め方について、部会員の方に今年度中のアクションプランの作成に向けて、構想部会をどう進めていくか考えていただきたいと思っている。1月に実施したアンケートの振り返りを含めて説明する。
- ・ 平成30年度に策定した「東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想」の浸透や認知がされていないことやアクションプランの策定状況が順調でないこと。また、ゴールや目標が見えてこない

といった回答があった。

- ・その一方で、協議会や部会の活動が有効である、各地域との意見交換は有意義である、考える場・話し合いの場が必要といった回答があった。また、コロナ禍でも開催をするため、オンラインでの意見交換の場を作った方がいいのではないかと前向きな回答もあった。
- ・3月の構想部会の中では、令和3年度の目標がはっきりしていない、協議会をいつまで続けるのかという意見があった。
- ・久教授からは、アクションプランができていない地域は、アクションプラン作成が共通の目標になる。アクションプランができていない地域は実践段階であり、アクションプランをフィードバックすることが一つの目標なるのではないかとアドバイスを頂いた。アクションプランができれば終わりではなく、プランの実行、評価をすることで地域がより良くなるというアドバイスを頂いた。
- ・しかし、コロナ禍により地域での会議といった話をする機会が、なかなか設けることができない難しい状況が続いている。
- ・事務局としても地域内の課題や困りごとについて、意見交換や話し合いをすることが、各地域の問題解決に繋がると考えている。構想部会で部会員同士の意見交換、話し合いを一つの目標として進めていきたいと考えている。
- ・部会の進め方として、活動状況、進捗状況を確認することは議題として挙げているが、他の議題をどうするかも議論して貰いたいと思っている。
- ・部会の目標だけではなく、各地域の今年度の目標を立てて貰いたいと思う。各地域で立てた目標に向かい、どのように進めていくのかも各地域で決めることが今年度のアクションプラン作成という目標に繋がっていくのではないかと考えている。この1年間の部会で何をするかを議論し、各地域の今年度の目標を立て、目標の達成に向けた具体的な取り組み内容を決めて頂きたいと考えている。

(部会長)

- ・各地域の取り組みを活性化するためには情報が一番欲しいと思う。東淀川西部地域以外での地域活動の実践例、珍しい取り組みといった情報提供を事務局にはお願いしたい。また、東淀川区、大阪市のまちづくりについても情報提供をお願いしたい。連続立体交差等の事業については、部会員に情報提供し、各地域に持ち帰り議論するといった形式にしたい。この議題を部会で議論するというやり方は難しいように思う。
- ・アクションプラン作成に向けた議題も部会内で議論して考えて下さいではなく、事務局から出すべきである。
- ・情報提供だけでなく、交流も構想部会の大事な機能だと思う。

(部会員)

- ・前年度のまでの流れを把握して貰いたいと思う。
- ・本部会員は地域活動協議会部会員でもあり、地域内で実際に動いている方が中心である。また、地域活動協議会には、町会長、社協会長といった運営主体の代表者が出ているが、代表者と綿密に連絡を取り合っている地域は少ないという印象を持っている。
- ・地域活動を実際に現場で行っている方と予算を決めたりする運営側には温度差がある。だからこ

そ、我々部会員が構想部会に来ている。この温度差がアクションプランを作る難しさに繋がっている。運営側には、我々程の温度感はないことを感じて頂きたい。

- ・表現がおかしいかも知れないがイベントや取り組みに関して、現場同士の情報共有は楽しいと感じている。コロナ禍の対応についても、各地域のやり方や工夫があるので勉強になる。
- ・地域のアクションプランを作るには現場の声をまとめ上げる必要がある。地域全体でまとめて決める部分を部会員のあなたがやりなさいというのは違うと思う。

(2) 活動報告及び意見交換

意見交換要旨

【部会の進め方について】

- ・西淡路地域と淡路地域には過去に作成されたビジョンがある。西淡路地域と淡路地域の人間が参加している別の会議の場で、西淡路地域と淡路地域の2つの地活エリアで一緒に新しいビジョンを作れないかと意見が出た。しかし、運営側の人間からは温度差を感じるような反応だった。
- ・啓発地域にも過去に作成されたビジョンがあるので次回以降の部会で誰かに来て頂き説明願いたい。
- ・部会の進め方の案だが、次回から各地域3分から5分程度で部会の中の2ヵ月間での出来事やイベントの開催報告をすることで情報交換になると思う。

【情報提供について】

(部会長)

- ・区役所の隣の土地に新しく入る事業者について、事務局で何か情報を把握していないか。

(事務局)

- ・把握していない。

(部会長)

- ・その土地に次はどういった事業者が入るといったことを情報提供して貰いたい。

(部会員)

- ・構想部会で提供して貰った情報を地域に持ち帰れるようにしたい。

(部会員)

- ・事務局は把握していないとのことだが、区役所は把握しているのか。

(事務局)

- ・事務局では把握していないが、別の部署が情報を持っている可能性はある。

(部会長)

- ・噂レベルの話だが、ショッピングモールができるなら働きたいといった声も地域では出ている。そういった情報も地域での良い話題になるので、部会で情報提供をしてもらいたいと思う。

【地域の活動状況】

西淡路地域

- ・朝の子ども食堂は7月の第1週から再開し、夜の子ども食堂は7月の第3週から再開予定である。

東淡路地域

- ・地域内で初めての地域食堂がオープンした。この食堂は地域内の人間もボラティアスタッフとして参加することが可能である。

新庄地域

- ・敬老大会を再開予定である。
- ・学校のグラウンド開放は7月の第1週から再開している。

下新庄地域

- ・地域内の公園でこいのぼりを設置するイベントを行った。

豊新地域

- ・7月31日に子どもお弁当の販売イベントを実施予定である。

【アクションプランについて】

(部会員)

- ・地域内のスーパーが閉店予定でその跡地を地域の高校が買うのか、良い立地なのでワンルームマンションが建つのかといった話が地域内でされている。こういった情報を他の地域や事務局からも出して貰えればお互いに情報共有できるので有意義だと思う。また、スーパーの跡地のような大きな土地の話は、保健福祉計画に記載できていないので、保健福祉計画のブラッシュアップが必要だと考えている。

(部会員)

- ・アクションプランの作り方という点で大きな土地、跡地が今後どうなるのかといったハード面の話は、アクションプランの策定でも重要だと思う。まず、ファミリー世帯が増えてほしいやワンルームマンションでもいい、若い学生が来て欲しいといったビジョンを地域で整理する必要があると思う。地域の将来像、10年後20年後をどう選ぶかが、アクションプランでは必要だと思う。
- ・地域特性の整理、ソフト面の整理も必要だと思う。地域の活動にはどういうものがあり、できている分野、足りない、あまりできていない分野は何かといった情報を整理する。情報を整理することで他の地域より頑張っている分野、頑張れていない分野が見えてくる。それを基にどの分野をアクションプランで伸ばすのかといった議論はできると思う。
- ・ハード面の情報整理とソフト面の情報整理をした地域カルテを作り、各地域でワークショップするといった方法もあると思う。ただ、コロナ禍といった状況でこの方法が正しいか断定はできない。
- ・ハード面の進捗状況は関心が高い話だと思う。小学校跡地やリニア、先ほどのスーパーの跡地などの進捗が地図上で分かるようにすれば良いと思う。

(久教授)

- ・事業者は地域がどう考えているのかを見ている。ビジョンを作っている地域は、地域の思いを尊重する必要があると判断される。もっと言うと地域が事業者に対して反対する時にビジョンを根拠にすることができる。
- ・地域が一丸となっていること程、事業者の怖いものはない。何かが起こったときに地域全体が同じ方向を見て、同じ話ができるようにするのがビジョンだと思う。
- ・部会員も述べられているが、計画を策定した後でも必要なことは追加しても良いと思う。

久教授のアドバイス要旨

- ・事務局からの情報提供は地域から言われてからではなく、積極的にして欲しい。
- ・おおさか東線が開通して、非常に便利になったと感じる。駅ができて終わりではなく、人の流れも変わってきている。そこから見えてくるものもあると思う。
- ・電車や車のルートがこの5、6年で変わり、地域も大きく変わってきている。元々、迷路みたいで入り難かった地域が入り易い地域になったことで、地域外の人間の視点も変わってくる可能性がある。
- ・駅や道路といった施設ができてから考えるのではなく、地域のここが変わると想像し、変わって欲しくないところはビジョンで押さえておく必要がある。そういったことも部会員と検討したいので、基礎データを事務局から出して欲しいと思う。
- ・ある区の社団法人が地域接種を行ったことを紹介したい。
- ・元々は区役所が地域のことを考えるためのワークショップや懇談会を運営していたが、地域でまちづくりを続けるために作られた社団法人である。その社団法人のメンバーには、不動産業、建築業に就いている人もいるので空き家活用について、その社団法人が中心になって動かそうとしている。
- ・メンバーの医者が中心となり打ち手を集め、事務局は他のメンバーで手分けして、地域の集会所を借りて、と話がテンポよく進み実施に至ったようである。
- ・近畿大学でも地域接種も始めている。なぜ大学の話をしたかという、他の大学から協力して欲しいと相談を受けたからである。他の大学への協力の実施には至らなかったが、日頃からもっと交流があれば手伝いに行こう、助けに行こうとなったと思う。これは地域でも同じ話で、用事があるときだけ手伝って欲しいではなく、普段から交流をしておこうという話である。

4. その他（意見交換）

（事務局）

- ・情報収集を行いきる限りこの場で提供をさせて頂こうと思う。
- ・6月に実施したリモート会議に向けたオンライン環境調査の集計結果をとりまとめたので確認願う。次回部会にて改めて説明させて頂く。
- ・今回の部会の座席形式についてはいかがか。

（部会員）

- ・作業にもよるが、テーブルは欲しいと感じた。
- ・コロナへの対応として、大きな会議室で距離を取って行う座席形式の会議はやりにくい印象がある。密を避けることとのバランスが難しいと思う。他の地域ではどのようにしているのか気になる。

（久教授）

- ・パーテーションがあれば密でも問題ないと思う。自作している地域もある。

（部会員）

- ・地域内で話合いの場が少なくなっているため、話し合いの場が必要だと機運が高まってきている部分もある。しかし、これまでのような形式でのワークショップは難しいと感じている。コンサルタ

ントではどう対応しているのか。

(事務局)

- ・会議をする場合はパーティションを設けるようにしている。地域から話を聞く場合は、可能ならリモート会議を実施するようにしている。地域側にオンライン環境がない場合は役所に伺って貰い、役所の会議室と弊社の会議室間でリモート会議を実施するようにしている。また、在宅勤務をしているものは自宅からの参加などを行い、なるべく接触の機会を減らすといった対応をしている。

(部会員)

- ・これからはオンラインの会議のような、やりやすい形を考えていくべきだと感じた。

(事務局)

- ・次の部会の参考にさせていただく。最後に、久先生からアドバイス等ないでしょうか。

(久教授)

- ・大学の学生もオンラインの講義に慣れてきたのか、オンラインでの受講率が高くなってきている。
- ・構想部会の進め方は、最初に情報交換を行ってから他の議題に入る形式が良いように思う。情報交換が盛り上がり時間一杯使うことがあっても良い。

5. 閉会

- ・次回の部会は9月9日午後7時から出張所3階多目的室で開催予定。

以上